

人口ビジョンの改訂について

今回の変更

変更点

人口動態の将来展望(現大刀洗町人口ビジョン35P～36P)を変更。

変更の理由

H27年度策定の大刀洗町人口ビジョンにおいて目標人口を設定。

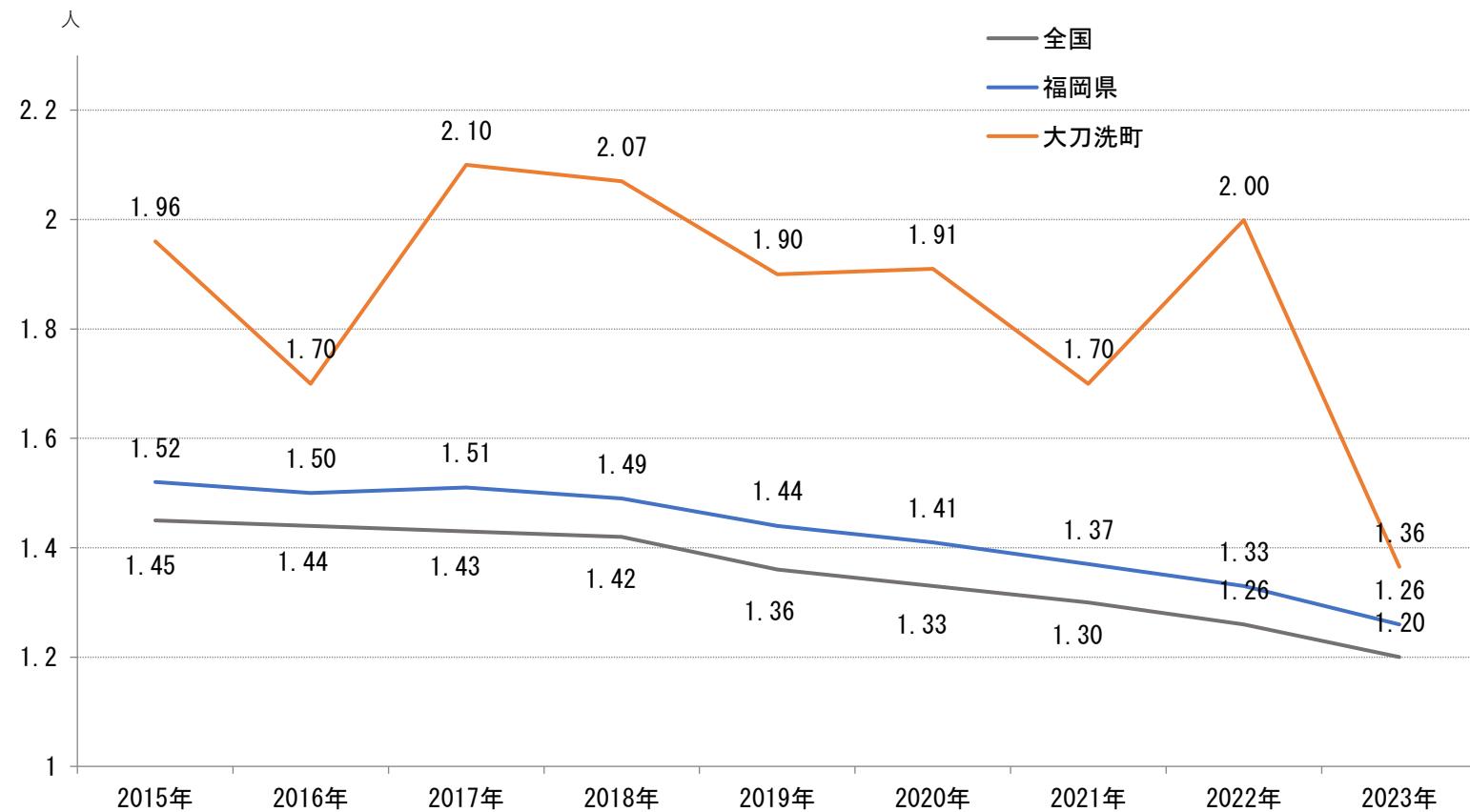
R2年国勢調査にもとづく社人研推計は上記目標人口よりも大幅に上回っており、現状との乖離が生じているとみられるため、あらためて国提供のワークシートを用いて将来展望を行うもの。

町の人口の現状・推計に係る論点

出生にすること

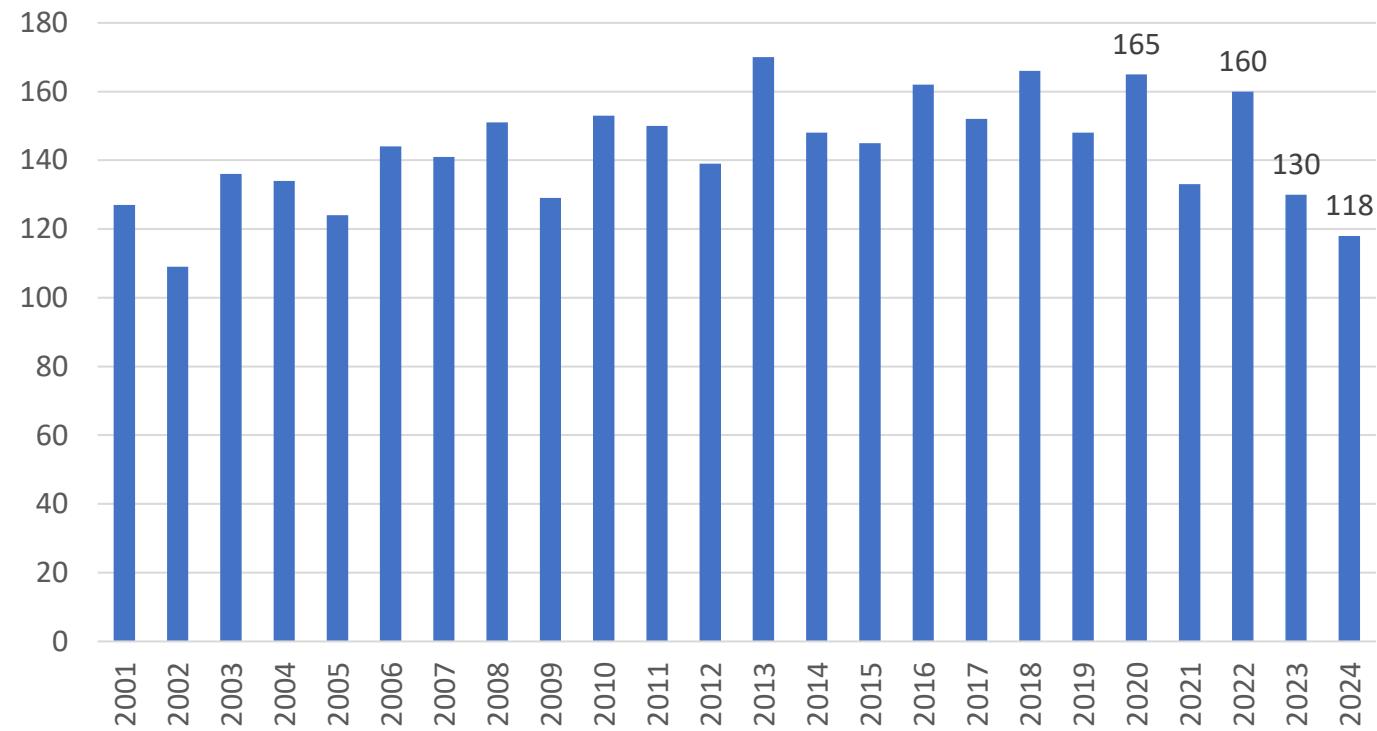
- 過去5年間(2018-2020)の出生率は1.96と高い水準で推移しているが、2023年の出生率は低下している。また、2023年・2024年と出生数が減少している。この傾向をどうみるか、人口推計にどう反映させるか。

合計特殊出生率



	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
全国	1.45	1.44	1.43	1.42	1.36	1.33	1.30	1.26	1.20
福岡県	1.52	1.50	1.51	1.49	1.44	1.41	1.37	1.33	1.26
大刀洗町	1.96	1.70	2.10	2.07	1.90	1.91	1.70	2.00	1.36

出生数



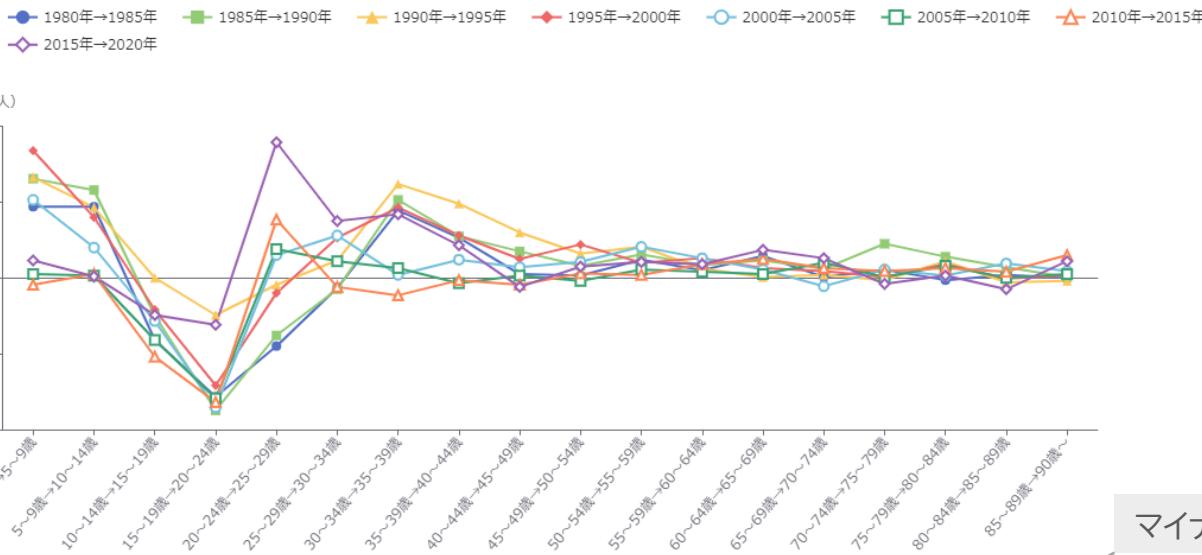
単位（人）※各年度、前年10月～当年9月までを集計

町の人口の現状・推計に係る論点

総人口に関すること

- 人口は微増傾向に、2020年国勢調査15,521人、(2005年⇒2015年は減少傾向にあった)2023年度末人口16,047人と過去最高の人口となっている。
- 交通アクセスがよく近隣と比較して地価が安いこともあり、民間による住宅整備や町によるスカイラーク整備によって転入超過が続いてきた。しかし、開発にも限界があり、民間開発の動きは鈍化することが見込まれ、転入の流れも縮小することが予測される。
- 2022・2023年は外国人の転出入が多く、本町の社会増減への影響がある。

年齢階級純移動数の時系列分析(大刀洗町)



大刀洗町の人口について、「2015年の0～4歳→5～9歳になった2020年に何人増減したか」を、5年ごとに示したもの。

●男女ともに

20~24歳→25~29歳

25~29歳→30~34歳

30~35歳→40~44歳

の年齢階級は2010年-

比較して増加

●男女とともに

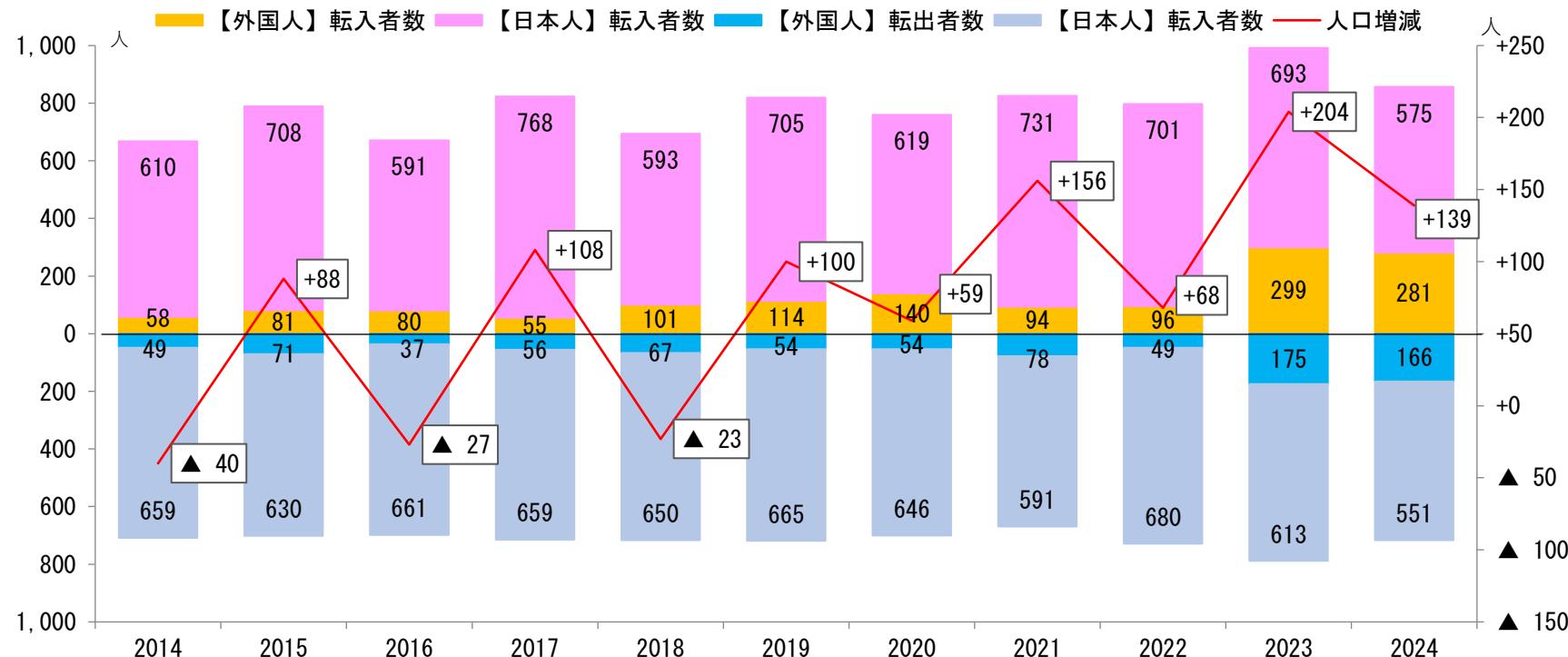
10~14歳→15~19歳

15~19歳→20~24歳

は純減の傾向が続いている。

2010→2015年より純
増の数値目標は改善

社会増減における外国人内訳グラフ



	【外国人】転入者数	【日本人】転入者数	【外国人】転出者数	【日本人】転出者数	人口増減	うち 外国人の増減
2014	58	610	-49	-659	▲ 40	9
2015	81	708	-71	-630	+88	10
2016	80	591	-37	-661	▲ 27	43
2017	55	768	-56	-659	+108	-1
2018	101	593	-67	-650	▲ 23	34
2019	114	705	-54	-665	+100	60
2020	140	619	-54	-646	+59	86
2021	94	731	-78	-591	+156	16
2022	96	701	-49	-680	+68	47
2023	299	693	-175	-613	+204	124
2024	281	575	-166	-551	+139	115

単位（人）、住民基本台帳関係年報調査表（各年1月1日時点）

※大刀洗町人口ビジョンTOP人口増減の推移とは対象期間が異なるため等により、数値が一致していません。

推計方法

推計	
社人研推計準拠	<ul style="list-style-type: none">・国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」(以下「社人研推計」という。)の最終的な推計結果と整合的な、各指標を利用した推計(コーホート要因法による将来人口推計)を行うことが可能である。・ただし、端数処理等の関係で、社人研推計の最終的な推計結果とは若干値が異なる場合がある。
独自推計	<ul style="list-style-type: none">・出生に関する仮定値である将来の合計特殊出生率等と、移動に関する仮定値である将来の純移動率や移動数等とを独自に設定することで、推計(コーホート要因法による将来人口推計)を行うことが可能である。・移動に関する仮定値については、将来の純移動率・純移動数(いずれか一方又は両方)を男女、年齢5歳階級別に設定する。

参考：内閣府地方創生推進室「人口動向分析・将来人口推計のための基礎データ及びワークシート(令和6年6月版)の提供について」

社人研推計の純移動数(男)

	移動数								
男	2020年→2025年	2025年→2030年	2030年→2035年	2035年→2040年	2040年→2045年	2045年→2050年	2050年→2055年	2055年→2060年	
0～4歳→5～9歳	-10	-20	-18	-14	-14	-15	-15	-15	-14
5～9歳→10～14歳	-1	-0	2	2	3	3	3	3	3
10～14歳→15～19歳	-42	-55	-64	-53	-50	-48	-47	-46	
15～19歳→20～24歳	-15	-61	-69	-82	-68	-64	-62	-60	
20～24歳→25～29歳	98	54	50	56	45	42	40	39	
25～29歳→30～34歳	20	31	25	26	31	28	24	23	
30～34歳→35～39歳	53	2	1	7	9	10	10	9	
35～39歳→40～44歳	31	-10	-1	-1	1	3	3	3	
40～44歳→45～49歳	8	-12	-15	-10	-10	-8	-7	-7	
45～49歳→50～54歳	31	7	7	3	6	6	5	5	
50～54歳→55～59歳	-6	7	4	4	2	4	4	3	
55～59歳→60～64歳	-6	2	3	3	3	2	1	1	
60～64歳→65～69歳	6	-1	-1	-1	-0	0	0	0	
65～69歳→70～74歳	18	7	6	6	8	8	7	7	
70～74歳→75～79歳	-6	-1	0	1	2	1	2	1	
75～79歳→80～84歳	8	-3	-6	-4	-2	-1	-2	-2	
80～84歳→85～89歳	15	11	22	13	14	16	17	21	
85～89歳→90～94歳	9	3	3	9	3	5	5	5	
90歳～→95歳～	-2	3	3	3	7	5	4	4	
男合計	210	-36	-48	-32	-11	-4	-7	-7	

単位（人）：内閣府提供ワークシートより

社人研推計の純移動数(女)

女 年	2020年→2025 年	2025年→2030 年	2030年→2035 年	2035年→2040 年	2040年→2045 年	2045年→2050 年	2050年→2055 年	2055年→2060 年
0～4歳→5～9歳	23	-12	-10	-6	-7	-8	-8	-8
5～9歳→10～14歳	-10	-13	-10	-9	-7	-7	-7	-7
10～14歳→15～19歳	-1	-23	-30	-24	-23	-22	-21	-21
15～19歳→20～24歳	-31	-21	-19	-32	-25	-24	-23	-22
20～24歳→25～29歳	21	47	55	57	44	41	39	38
25～29歳→30～34歳	-1	-14	-17	-16	-12	-18	-16	-15
30～34歳→35～39歳	44	-14	-2	-4	-4	-3	-3	-3
35～39歳→40～44歳	14	-23	-15	-5	-6	-9	-9	-9
40～44歳→45～49歳	-1	-7	-9	-6	-1	-1	-2	-2
45～49歳→50～54歳	9	2	-2	-4	-2	2	2	2
50～54歳→55～59歳	8	5	6	3	1	3	2	2
55～59歳→60～64歳	13	3	3	4	5	3	2	2
60～64歳→65～69歳	10	4	4	4	5	5	5	4
65～69歳→70～74歳	-9	3	4	4	5	5	5	5
70～74歳→75～79歳	1	-6	-6	-5	-3	-4	-4	-4
75～79歳→80～84歳	18	14	10	9	9	11	12	11
80～84歳→85～89歳	-1	5	13	8	8	9	9	10
85～89歳→90～94歳	14	9	9	21	15	15	14	14
90歳～→95歳～	3	3	2	2	6	3	3	3
女合計	124	-39	-14	2	7	-1	1	1
男女合計	335	-75	-62	-30	-4	-6	-7	-6

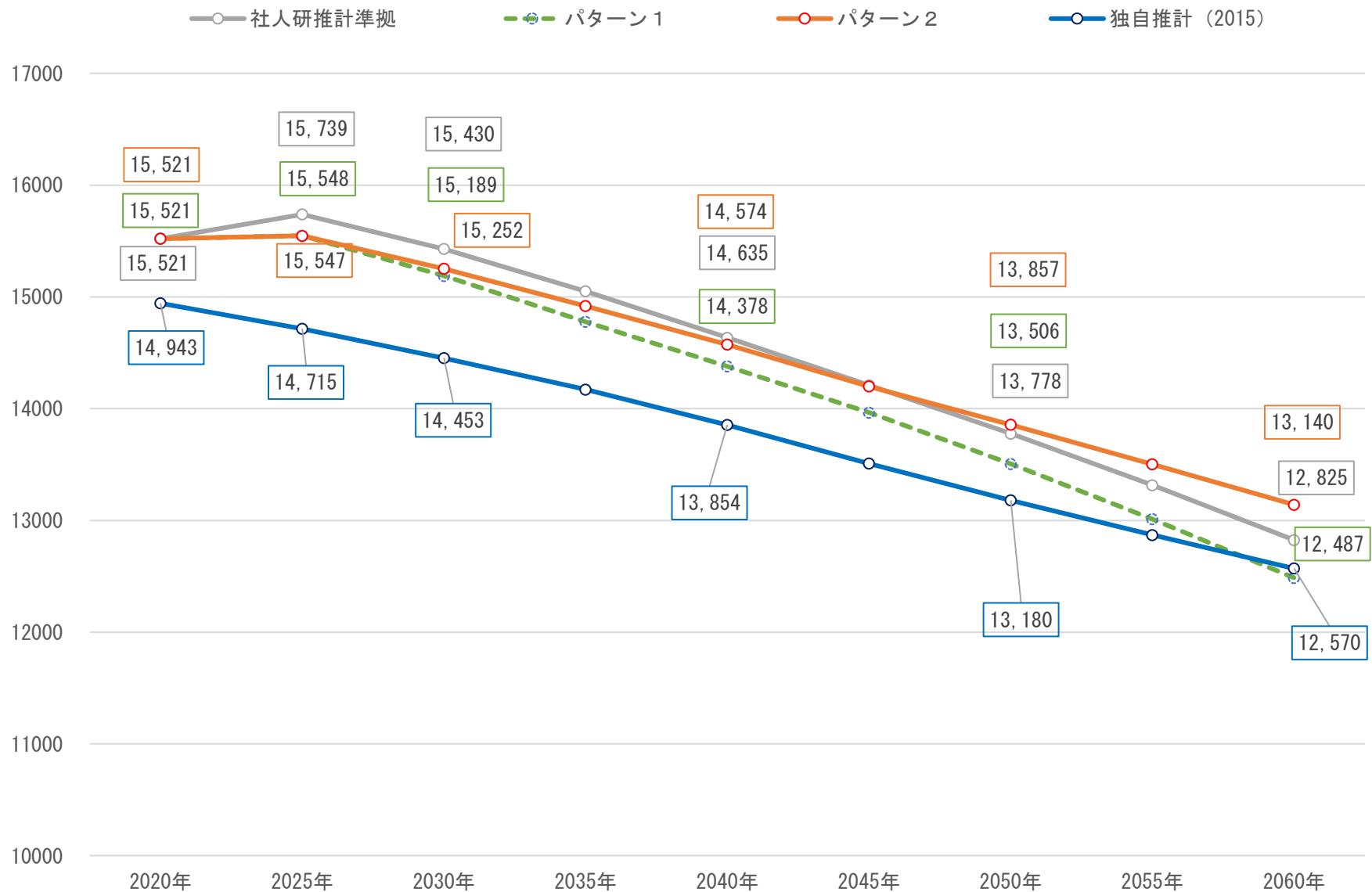
2025年→2030年以降の純移動数はマイナスが続く。→社会増による人口の確保が困難になっていくという推計

単位（人）：内閣府提供ワークシートより

独自推計(2024)の仮定値(パターン1・2)

推計	合計特殊出生率	移動
パターン1	<p>2025年は直近2023年の出生率。 2030年以降は現行の人口ビジョンの 目標出生率</p> <p>2025年:1.36 2030年:1.7 2035年:1.8 2040年:1.9 2045年:1.95 2050年以降:2.00</p>	社人研準拠推計の移動率
パターン2	<p>2025年は直近2023年の出生率。 2030年以降は現行の人口ビジョンの 目標出生率</p> <p>2025年:1.36 2030年:1.7 2035年:1.8 2040年:1.9 2045年:1.95 2050年以降:2.00</p>	2020年⇒2025年は社人研準拠推計 の移動率。それ以降は社会増減が拮抗 する(± 0)

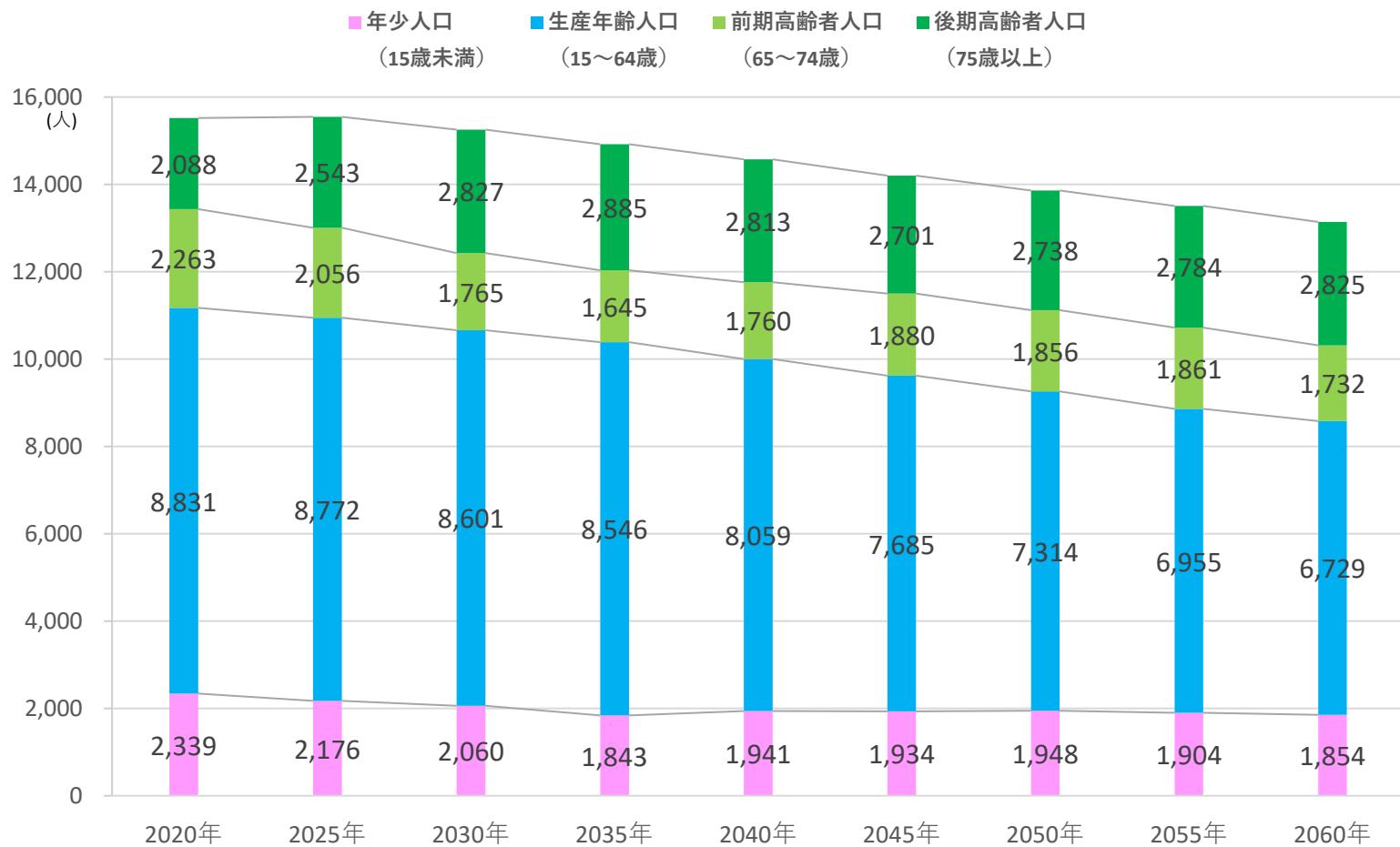
パターン1・2の比較グラフ



(単位：人)

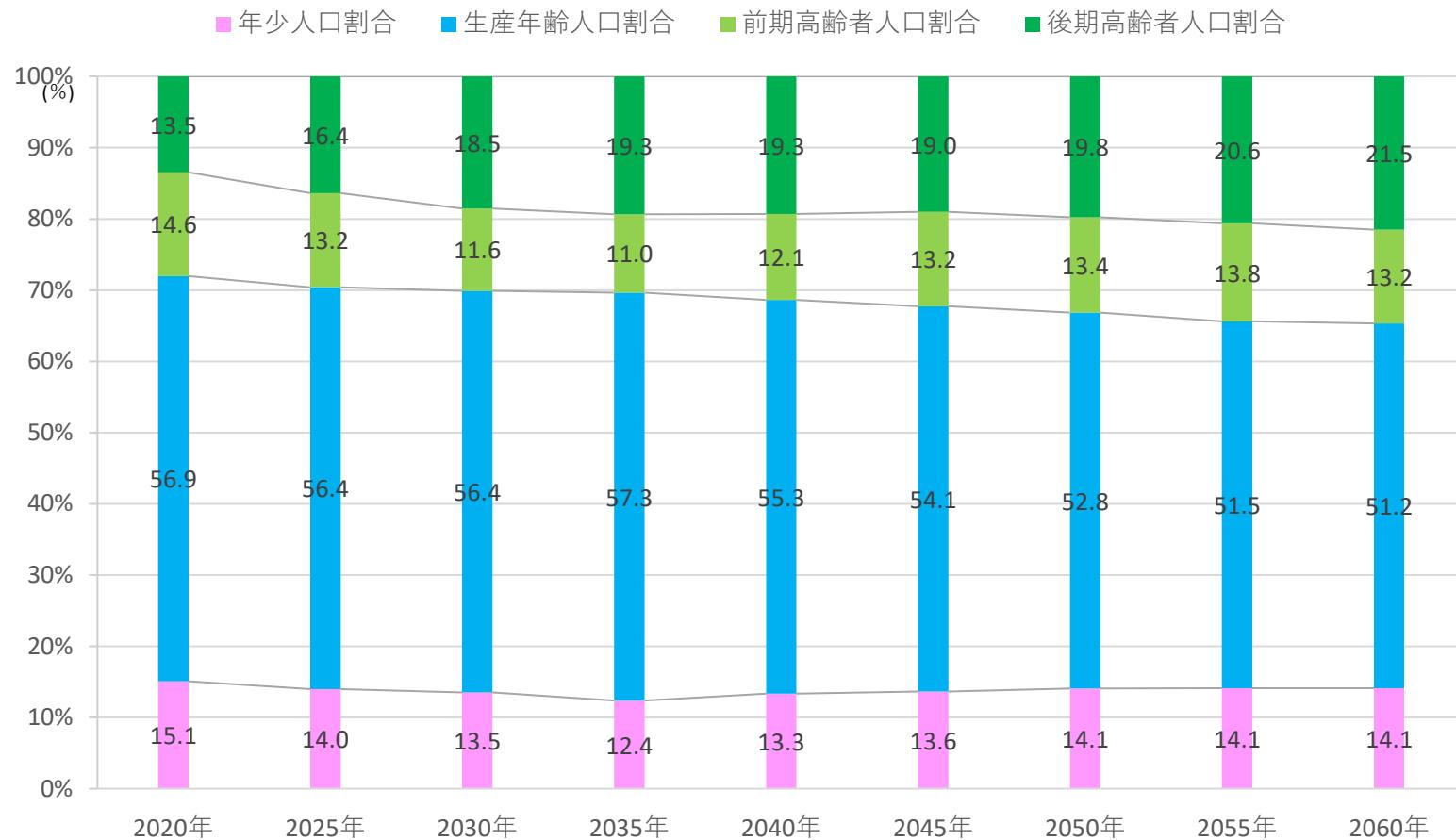
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
目標人口（2015）	14,943	14,715	14,453	14,171	13,854	13,509	13,180	12,870	12,570
社人研推計準拠人口	15,521	15,739	15,430	15,051	14,635	14,210	13,778	13,315	12,825
パターン1	15,521	15,548	15,189	14,778	14,378	13,966	13,506	13,012	12,487
パターン2	15,521	15,547	15,252	14,919	14,574	14,200	13,857	13,503	13,140
パターン1									
H27目標人口との差	578	833	736	607	524	457	326	142	-83
社人研推計準拠人口の差	0	-192	-241	-273	-257	-244	-271	-303	-339
パターン2									
H27目標人口との差	578	832	799	748	720	691	677	633	570
社人研推計準拠人口の差	0	-192	-177	-132	-61	-10	79	188	315

パターン2(年齢区分別人口の将来推計)



2020年と比較した2060年の推計人口は、16.4%減(▲2,381人)
年少人口▲485人、生産年齢人口▲2,102人、前期高齢者人口▲531人、
後期高齢者人口737人増

パターン2(年齢区別人口の将来推計(割合))

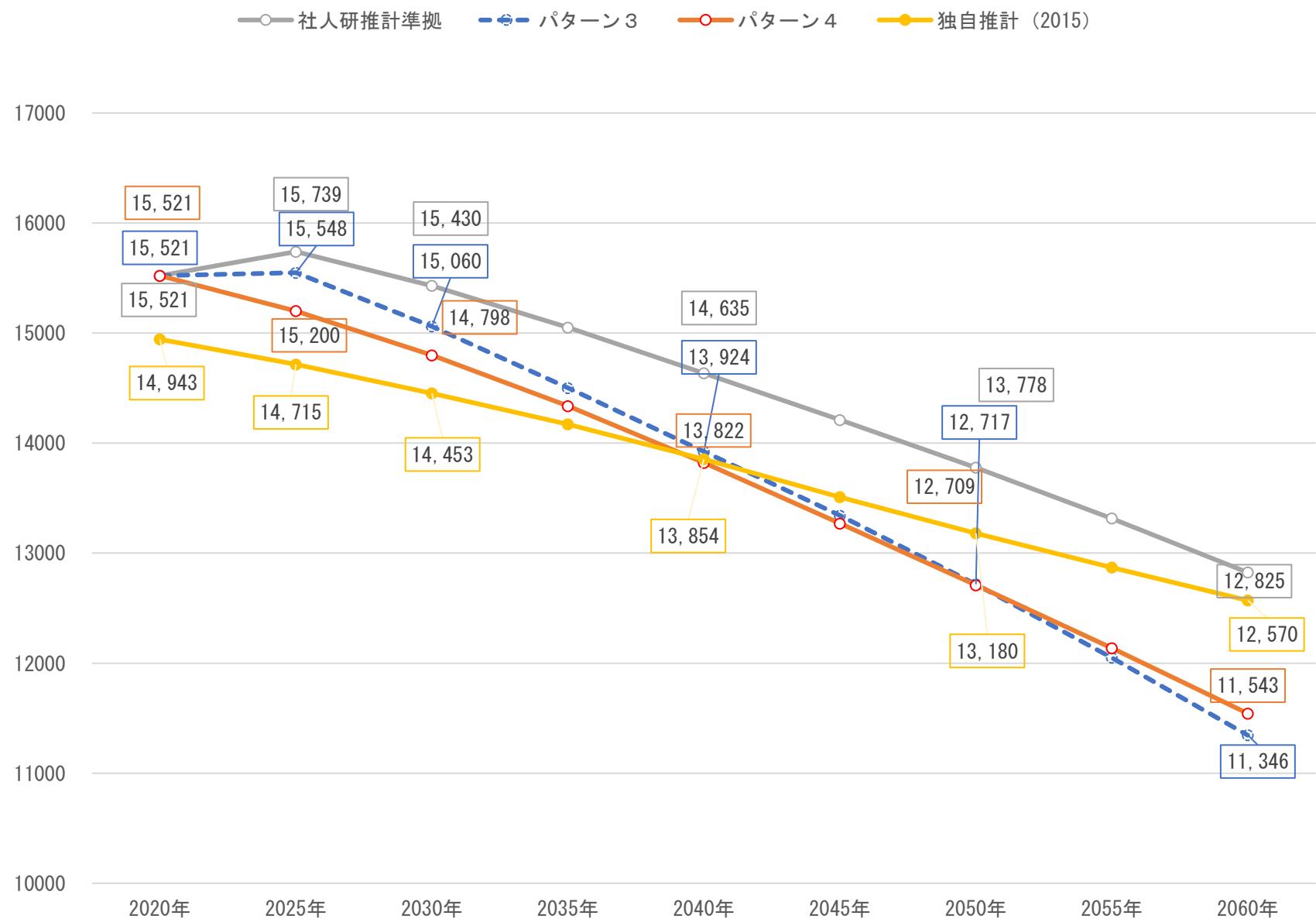


2020年と比較した2060年の年齢区別人口の割合は
年少人口は▲1.0%、生産年齢人口▲5.7%、
高齢者の人口(前期高齢者+後期高齢者)6.6%増

参考：パターン3・4

推計	合計特殊出生率	移動
パターン3	2023年出生率1.36で2060年まで推移する	社人研準拠推計の移動率
パターン4	2023年出生率1.36で2060年まで推移する	社会増減が拮抗する(±0)

パターン3・4の比較グラフ



(単位：人)

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
目標人口（2015）	14,943	14,715	14,453	14,171	13,854	13,509	13,180	12,870	12,570
社人研推計準拠人口	15,521	15,739	15,430	15,051	14,635	14,210	13,778	13,315	12,825
パターン3	15,521	15,548	15,060	14,500	13,924	13,342	12,717	12,050	11,346
パターン4	15,521	15,200	14,798	14,336	13,822	13,270	12,709	12,137	11,543
パターン1									
H27目標人口との差	578	833	607	329	70	-167	-463	-820	-1,224
社人研推計準拠人口の差	0	-192	-369	-550	-711	-868	-1,061	-1,265	-1,480
パターン2									
H27目標人口との差	578	485	345	165	-32	-239	-471	-733	-1,027
社人研推計準拠人口の差	0	-539	-632	-714	-813	-940	-1,068	-1,178	-1,282